

冬ノ一裏

辱へにくの衣の露すでにきえ慈悲へじひの月

たちまちにあきらかなり一百返へんの念仏へねんぶつ

已成就へすでにしやうじゆの所二十五の菩薩へぼさつの摩頭へまとうに

あづかり紫雲へしうんの絶へたえまより金色へこんしきのひかり

かゝやきて観音蓮臺へくはんをんれんたいをかたぶけて出現へしゆつげん

し給へり踊躍へゆやくの歡喜へくはんぎのあまり一首の

哥をぞよみける

ほとけには桜の花をたてまつれ

わがのちの世を人とふらは